

全身性強皮症早期診断基準案

大項目

1. レイノー現象
2. ELISA法で抗Scl-70(トポイソメラーゼ I)抗体、抗セントロメア抗体、抗RNAポリメラーゼⅢ抗体のいずれかが陽性

小項目

- a. 蛍光抗体間接法で抗核抗体陽性
- b. 手指の腫脹
- c. 肉眼的に爪上皮出血点が2本以上の指に認められる*、またはcapillaroscopyで全身性強皮症に特徴的な所見が認められる**

判断の基準

皮膚硬化を認めず、かつ以下の基準を満たす場合に全身性強皮症早期例と判断する

大項目をいずれも満たすもの

大項目の1のみを満たす場合は、小項目のいずれか2項目を満たすもの

大項目の2のみを満たす場合は、小項目の b あるいは c のいずれかを満たすもの

小項目を全て満たすもの

*爪上皮出血点(図1)は出現・消退を繰り返すため、経過中に2本以上の指に認められた場合に陽性と判断する

**図2に示すような、毛細血管の拡張(矢頭)、消失(点線内)、出血(矢印)など

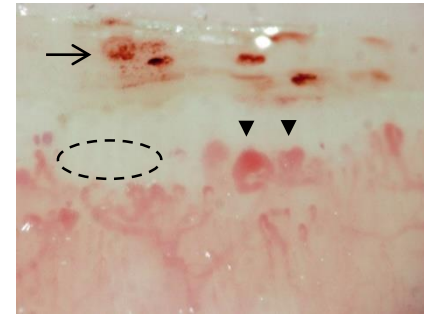
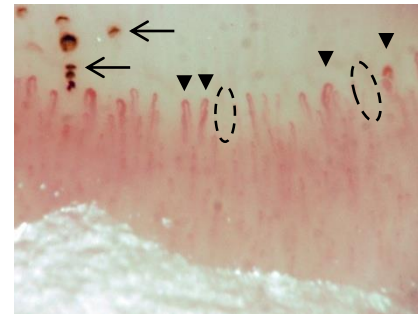
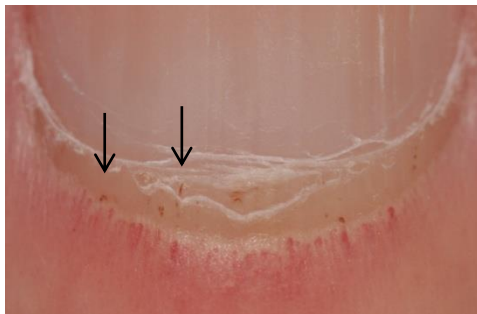
図1. 爪上皮出血点

図2. capillaroscopy像

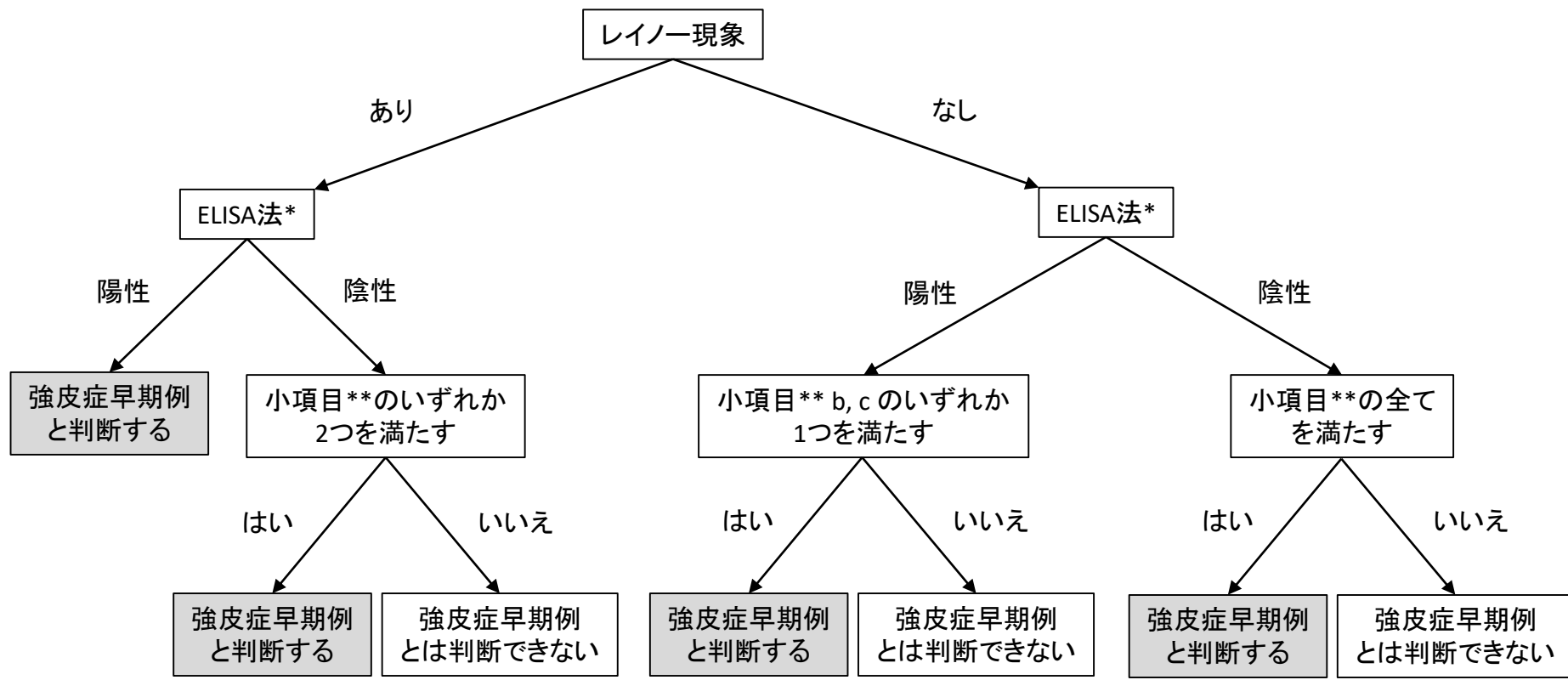
健常人

全身性強皮症

全身性強皮症



フローチャートによる全身性強皮症早期診断基準案



*ELISA法で抗Scl-70(トポイソメラーゼ I)抗体、抗セントロメア抗体、抗RNAポリメラーゼIII抗体のいずれかが陽性の場合を「陽性」、全て陰性の場合を「陰性」と判定する

**小項目は以下のa, b, cの3項目である。

- a. 蛍光抗体間接法で抗核抗体陽性
- b. 手指の腫脹
- c. 爪上皮出血点が2本以上の指に認められる (capillaroscopyで全身性強皮症に特徴的な所見が認められる)